

第5期 福岡市男女共同参画審議会
男女平等教育・地域支援部会（第3回）議事録

1. 開催日時 平成26年7月9日（水）16:05～17:00
2. 場 所 福岡市役所 第4特別会議室（15階）
3. 出席者（出席委員 6名）
石川委員、久池井委員、久保川委員、櫻井委員、日高委員、藤井委員
（欠席委員）
なし
（福岡市 1名）
市民局男女共同参画課長
4. 傍聴人 1名
5. 議 題（1）副部会長の選出について
（2）重点評価項目の審議・評価
6. 議事概要 (○…委員 △…事務局)

【議題1 副部会長の選出について】

- 副部会長は、昨年副部会長を務めていただいた野田委員の後任の櫻井委員にお願いしたいかどうか。

【異議なし】

- それでは、副部会長は櫻井委員にお願いします。

【議題2 重点評価項目の審議・評価】

①「男女平等教育の推進」について

- 学校の方はどうか。
- 中学校は全ての教育活動が生徒指導と連動している。男女平等教育や人権教育が出来てないわけではないが、その全てに生徒指導が優先する状況にある。ここ2～3年は福岡市全体が落ち着いている様に感じていて、学力も上がっている。学校や生徒が落ち着けば、男女平等教育も学力も全てがうまくいくと思っている。
- 学校でいくら教育しても家庭で同じように思っていなかったらうまくいかない。今、「心のノート」から「私たちの道徳」に変わって、それを保護者と一緒に読むような形を作ってもらえないかなと思っている。全ての道徳教育の中にこういった人権問題がすごく大きく関わってくるので。
- 誰がやるのか。
- 保護者である。
- 保護者がやればいいが。学校現場の実感として、保護者を巻き込んでまでは動いていない。だから私たちは目の前の子どもを変えるのが精一杯のところだと思う。中学校の教員は部活動の指導などで土日もなく働いており労働時間はずば抜けて多いが、それを当然のように言う保護者もいる。その中で、どれだけ人の人権に関わるような事がやれているのかと言うと課題があると思う。だから学校が、生徒が落ち着くと男女平等教育や人権教育も力を入れることができる。それができる学校ばかりではないので、副読本や混合名簿の数字が上がらないのではないかな。
- 男女平等教育と地域は関わってくると思う。先日、中学のサポーター会議に出席した時に中学の先生のオーバーワークという事が問題になり、地域から「管理職の先生が子ども達にだけでなく先生にもきちんと目を向けてください。管理職をサポートするのは地域がしていきます」という声が出た。だから管理職は子ども達にも先生達にも気を使って子どもがすごく落ち着いている。そういった意味で地域が落ち着いていれば色んな幅広い面で男女平等教育などにも目を向けていけると思う。私もPTA会長をしたことがあって保護者を巻き込むと言うと「人を巻き込んでくれるな」という方がたくさんいるので、「一緒にやってみましょう」という形で進めていく中で、男女共同参画がそこ

にある。特にPTAは母親が関わる事が多い。地域もそうだが、多くの男性は会社を優先してはいけない。意識の中では家族も大事にしたい、子どもも大事にしたいと思っても現実問題として出来てないので、そこに女性が力を発揮していくものを身に付けていくかというところがベースにあるのではないかと思う。

- そこも大事である。我が校の学年主任3人のうち2人が女性。そういうふうに学年全体を女性が引っ張って自信を持てば、管理職の数の増加の方向に行ける素地が出来るかも知れないと思う。でも、学校の教諭の半分は女性だと思うが、教頭や校長を目指す時に尻込みをされる。それは、家庭と一緒に両立できないと言われる状況にあるからです。だから、社会全体でよく考えないといけない、学校職員というだけではちょっと難しいと思う。
- 一番平等と思われている職種である学校の先生でさえ、自分が管理職になってしまえば、子育てや介護の時間が削られるという思いが払拭出来ないんですよね。だから、こんな言い方をすると大変申し訳ないが、管理職になられた方は、シングルという先生が私の周りにも多い。
- それは私も感じている。でも、私はいい方に向いていると思う。中学校の管理職も女性が増えてきたし、少しずつだが、悪くはないと思っている。だけどこの指標で良い評価をされるまでは難しいと思う。
- 混合名簿の問題では小学校では抵抗なく採用されるのに中学校では採用が進まない理由として、健康診断の時など男女別々にしていた方がいいという事を聞いた事がある。
- まず、そこが一つの大きな問題である。子ども達の健康管理というのが最優先するので、そこで出来た名簿というのが全てになる。男女混合名簿は私の学校でも作ってはいるが、何かをする時には男女別の方が便利だったり早かったりする。よく言われるのが、番号を振ってさっと分ける様にエクセルでもなるだろうと言われるが、その10秒、15秒が待てないというところもある。作ってはいるけれどもなかなか活用できてない歯がゆさがある。もう少し生徒指導も落ち付いてくればもっと使えていくのでは。小学校が抵抗なく使えるのは、生徒指導上の議題をあまり感じてないからかも知れない。中学校は身体的にも変わってくるので、どうしても一緒にしにくい。だから、その指標が同じ男女混合名簿でやられると違和感があると言うのが正直なところであるが、一つの指標なのでそれはしょうがないと思う。
- 指標がしょうがないのではなくて、いつも男が先、女が先という名簿だと、刷り込み

があるから混合名簿にしよう、それで妨げになる様なところは別の名簿を使えばいいと言うのが主旨だと思う。

- 私が言いたいのは、小学校と中学校は違うということである。
- 学校現場や学校の先生の勤務状況が非常に厳しいというのも分かるが、ここのテーマは男女平等教育の推進であり、目標値が上がっているというより誤差の範囲にしか見えない。誤差の範囲を5年間続けても根本的な解決にはならないと思う。この審議会で私も前から言っているが、中学生の副読本はわかりにくいので、早く分かりやすい内容に改定して欲しいという事、それと、中学生向け出前セミナーのアンケートで、80%が良くわかったと回答している。こういう成果のあがっているものを浸透させていくことが大事だと思う。
- 出前セミナーは素晴らしく良いと思う。
3年間で一回りするということだが、これは続けて行くべきだと思う。
- 中学生は第二次性徴期、性的にも変わってくる頃だし、自我も葛藤がある揺れる時期で、高校入試というのもあるので、その時に全員が3年間で1回は出前セミナーを聴いて卒業するようにしてほしい。予算とか行く人がいないというのはあるだろうが、効果が上がっている事を徹底してやってみようか。予算だと言われればどうしようもないし、意見を言う事さえ虚しくなってしまうので、突破する力を担当課も持ってほしいと思う。
- 利用率の低い副読本に予算を取るなら、セミナーの方に重点を置くとか方法はあると思う。
- 副読本は先生方の手掛かりになるので、あった方がいいと思うが、すごく読みにくい。資料は網羅されているが、これを使って子ども達に教えなさいと言われると難しいと思う。今は、パワーポイントを使って、子ども達の目を引く見せ方は出来ると思う。
- 市役所の共有サーバーに貼り付けて、いつでも先生方が見れる様にしてもらえばいいと思う。
- データなら、改定はその場で出来る。必要なところだけプリントアウトして子どもに渡せばいい。
- 活用率にしても学校が使ってないと回答しても、先生によっては使っている人は何人

もいると思う。アンケートの取り方にも問題があるという話を去年もした。

- △ そういう使い方もあると思うが、ここの指標としてあげているのは、副読本を活用して授業として1時間やって頂くという事でずっと数字を上げてきている。
- 男女共同参画は大事だよと言うだけでは、子ども達には届かないと思う。何故なのか？背景はどうか？それをしないとどんな損するのか？そうするとどういう世の中になるのか？きちんと説明すると1時間ぐらい必要と思う。

②「地域における男女共同参画推進活動の支援」について

- 地域の意識が変われば、日本全体が変わると思います。とても大事な事だと思う。参画ウィークの取組みは数値目標では上がってきていて、いいなと思うが、男女共同参画協議会など、一部の女性だけの取組みになっていないかという懸念がある。自治協議会を中心とした校区全体の取組みにならなければ、みなさんが暮らしているところの意識は変わらないと思う。男女共同参画協議会だけの参画ウィークになると、去年もやったから今年も、来年もしないといけなくて帳面消しになる。せっかく福岡市が参画ウィークというのを独自に設けているので、地域の力になるような参画ウィークにしなければいけないと思う。地域が変わらなければ、いくら市役所で女性の管理職が増えても、審議会の女性委員が増えても大きくは変わらないと思う。
- 自治協の7区の会長や、男女協の7区の会長は比較的理解していると思う。146校区ある各校区の中で、自治協と男女協で相互理解出来ていない部分があるので意見交換をしてもらいたい。校区の男女協の会長も自分達が自治組織の中でどういう位置にあるのかと自覚をきちんと持ってもらいたい。旅行したりすることだけが自分たちの行事だと思っているところもあるので。
- それで参画ウィークに関わったというところと違うと思う。
数字が実態ではないというところがあると思う。自治協議会にしてみれば女性だけでやっという風になると、せっかくの福岡市独自の参画ウィークなのにもったいない。
- 元々、市は一方的に男女協に啓発しろと言ってきていて、啓発といっても人権尊重推進協議会と似ている部分があって、地域の中でも何をするのが男女協なのか目に見えない部分があるので、7区男女共同参画協議会から市に参画ウィークを作ってくれとお願い

いしたのが発端で、自治協にも意見を聞きながら、3～9日の参画ウィークという事で、また、「みんなで参画ウィーク」という素敵な言葉を中学生に作ってもらって、一つずつ積んでいく中で、自治協、男女協の会長さん達にも同じ様に地域での自分の校区での関わりについて研修や成り立ちを学んでもらわないと、参画ウィークに取組みましたと言っても、なかなか現実ではないと思う。

- 男女共同参画というのは目に見えないので、地域での“見える化”をしないといけないと思う。今アイデアは無いが、それを考えてみないか。そうすると、校区の自治協の人も他の校区と比べて差があるかどうか分かる。
- 地域の中で男女協って何するの？という意識がある。私の校区では各町内の男女共同参画推進会の委員に自治会長は全部入らせている。副会長も男性が去年から一人入っている。そういう形で入れながら町内で浸透させてもらいたいと思っている。総会の時に私は地域のリーダーに女性を増やす責任を負わされているから、みんなも考えてほしい、リーダーに女性を取り上げてほしいという話をしている。
- 各校区の自治会長がそういう意識を持つ事が大事。そのために、こういう事したら男女共同参画の“見える化”のような冠がひとつあって、それをみんなで競争するような形になれば分かりやすいかもしれない。
- 地域が変われば、みんなが暮らしやすく、生きやすく、働きやすくなると思う。
- できるだけ色んなものの責任者に女性の方を据えていく事を考えていかないといけない。
- 公民館では必ず人権教育をしなければならないとなっている。その中に男女共同参画を年一回は入れるべきというような働きかけを市役所からはできないのか。
- 男女平等教育の中に公民館の職員の研修が書いてあるが、基本的に地域における公民館の位置付けというのは自治協との両輪である。公民館と協力していこうと思えばもちろんできる事だし、校区によっては公民館と共催して男女協の研修や講演会を行っているところもある。
- テーマが少し外れるかも知れないが、国会と議会のヤジ問題があったが、ああいう事が起きるのも男女共同参画社会が成熟していない、達成されてないから起きるということ子ども達の教育に反映させているのか。男女共同参画社会が作られると何が社会に

とって良くなるのか、子ども達からすると少しイメージしづらいものが、事例を上げてもらうと分かりやすくなると思う。

- 講演というのは、その時のホットな話題を盛り込んでいると思う。だから、分かったと回答していると思う。
- 基本的に子どもが分かったという回答にしても、どの程度分かっているかは疑問に思う。
- そうかも知れなが、全く聴かないで卒業するのと、それだけ聴いて卒業するのは全然違うと思う。
- 聴くことはいいと思うが、1回でそこまで理解できるとは思えない。80%が分かったというのは、分からない部分もあるが、まあ分かったという数字じゃないかなと思う。
- それでもいいと思う。頭の隅に少しでも引っかかって、あとは全部忘れてしまったけれど社会に出たり、その場面に遭遇した時に、この事かと思ってもらえばいい。それが全く引っかかりが無い人と有る人では全く違うと思う。
- 出前セミナーでうちの中学校にも来てもらった。女性消防士の方が来て、父親から「お前は女だから消防士にはなるな」と反対されたが、おじさんがすごく薦めてくれたと実践的な話を聞く中で、女の子、男の子問わず、職業を性別で決められなくていいんだと分かったようである。子ども達には分かりやすい話だった。
- 子どもの教育はキャリア教育をやってもらいたいし、地域においては結果を報告してもらうのではなくて、課題を設定してそれを取り組んでもらうような事をしてほしい。
- 地域は自治なので、直接的には言いにくいところがある。誘導策でいいのではないかな。

△ 次回の部会は、7月16日15時からを予定している。市民局公民館調整課の出席のもとヒアリングを実施のうえ、重点評価項目についてご審議いただきたい。